

アジアの友

The Asia-no Tomo

福田ドクトリン記念碑 除幕式典を開催

<研究者インタビュー>

シュボジット チャタルジーさん（インド）





福田ドクトリン 記念碑 除幕式典



村山富市元総理からのご祝辞

福田ドクトリン記念碑の建立おめでとうございます。

“アジア諸国との心と心の交流”ということも含め、同ドクトリンに盛られた基本理念は、今日においてもなお、大きな意義を持っています。貴協会に集うアジアの将来を担う若者たちが、日々この記念碑に触れ、思索の糧としてほしいと思います。

貴協会の活動のさらなる発展を心からお祈りいたします。

2021年11月24日

第81代内閣総理大臣 村山富市

アジアの友

2021年10-12月号 第548号

目次

	巻頭特集
2	福田ドクトリン記念碑 除幕式典を開催
3	I 除幕式ご挨拶
	・白石勝己（公財）アジア学生文化協会 理事長
	・福田康夫 元内閣総理大臣
	・駐日シンガポール共和国大使 ピーター タン ハイ チュアン閣下
11	II レセプションご挨拶
	・成澤廣修 文京区長
	・杉浦正健 元法務大臣
	・福田康夫 元内閣総理大臣
	・佃 吉一 学校法人 ABK 学館理事長
17	福田赳夫総理大臣のマニラにおけるスピーチ（福田ドクトリン演説 全文）
	研究者インタビュー
21	シュボジット チャタルジーさん ～インド
	新星学寮での生活
28	⑤ マレーシア人寮生に聞く 新星学寮の生活 チャン ジュンシ さん
	コラム 泰日工業大学奮闘記
32	④ 「動き出した TNI、そしてタイの学校」 水谷 光一
34	知友会通信 奨学金、就職イベント情報
36	MEMBERS 会費とご寄附のご報告

<表紙> 福田ドクトリン記念碑

Photo by Yoichiro SAKAI

福田ドクトリン記念碑 除幕式典を開催



(左から) 駐日フィリピン共和国大使 ホセ カスティリョ ラウレル 5 世閣下、駐日シンガポール共和国大使 ピーター タン ハイ チュアン閣下、福田康夫元内閣総理大臣、白石勝己アジア学生文化協会理事長、佃吉一 ABK 学館理事長、杉浦正健元法務大臣

2021年11月24日、公益財団法人アジア学生文化協会(ABK)では、福田康夫元総理やシンガポール大使ピーター タン ハイ チュアン閣下、フィリピン大使ホセ カスティリョ ラウレル5世閣下ご臨席のもと、ABK敷地内に建立された福田ドクトリン記念碑の除幕式典を開催しました。福田ドクトリンは1977年に当時の福田赳夫総理が表明した外交原則で、2018年にフィリピンに記念パネルが設置されましたが、今、改めてその意味を見つめ直す意味も込めて、有志の方々による日本版記念碑の計画がスタートし、今回の除幕式典開催に至りました。

本誌では当日の登壇者皆様のご挨拶をご紹介します。(掲載にあたり、ご本人に当日のお話への加筆・修正等をお願いいたしました。)



I 除幕式ご挨拶

公益財団法人 アジア学生文化協会 理事長 白石勝己

元内閣総理大臣 福田康夫様、駐日フィリピン共和国大使 ホセ カスティリョ ラウレル5世閣下、駐日シンガポール共和国大使ピーター タンハイ チュアン閣下、ご列席の皆様。

本日は私ども公益財団法人アジア学生文化協会と学校法人ABK学館による「福田ドクトリン記念碑」除幕式にご参列いただき、誠にありがとうございます。

うございます。まず初めに、なぜ私どもがこの「福田ドクトリン記念碑」を建てることとなったかご説明をさせていただきたいと思います。

ご存じの通り「福田ドクトリン」は第67代内閣総理大臣である福田赳夫元首相が1977年に東南アジア歴訪の最後の地、フィリピン・マニラで表明した日本の東南アジアに対する外交原則です。その内容は

- (1) 日本は軍事大国とならず、世界の平和と繁栄に貢献すること
- (2) 心と心の触れ合う信頼関係を構築すること
- (3) 日本はASEANと対等なパートナー



として ASEAN 諸国の平和と発展に寄与すること

の3原則として知られ、東南アジア諸国での高い評価を得て、今日に至っています。

今から3年ほど前、2018年に、福田ドクトリン40周年記念として、フィリピンのマニラホテル内に祈念パネルが設置されました。その後、日本でも、これと対になる記念碑を設置できないか、と日本の有志の方々から発案されました。そこで長年東南アジアから多くの留学生を受け入れ、各国の日本留学同窓会とも関係が深いということで、私どもにお声がけを頂きました。私たちとしても、大変名誉なことであり、



ぜひ記念碑を設置させていただきたいと申し出て、今日の除幕式を迎えることができた次第です。

同ドクトリンは心と心の交流により、平和外交を希求する歴史的な文章であり、普遍的な意義を有していると信じます。これは国や民族、宗教を超え「互惠協力」により「人間的和合」を求めるといふ、私たち協会の理念と合致するところであり、アジアの将来を担う若者たちがこの記念碑に触れ、平和と友好の大樹として育つよう願います。

もう一つお話ししたいことがあります。本日まで臨席いただいている福田康夫先生が政権を担っておられた2008年に「留学生30万人計画」を提唱されました。これは当時10万人だった留学生数を2020年までに30万人にしようという計画で、その後、様々な施策が行われ、目標年の2020年より2年早く2018年には30万人

という目標が達成されました。我々留学生教育にたずさわっている者は、この施策によってたいへん勇気づけられました。しかし、現在世界的な新型コロナウィルス感染の影響で、海外からの渡航は厳しく制限され、日本の留学生の数は20万人代まで減っています。今後、コロナ禍がおさまれば、また徐々に留学生の入国がはじまると思われますが、この未曾有の困難を乗り越え、さらに数も質も充実させた留学生受け入れに努力していくことを、ここにお約束させていただきたいと思っています。

最後に、この間、記念碑設置に当たり、福田康夫先生、外務省OBで元中国大使の谷野作太郎様、同じく元インドネシア大使の塩尻孝二郎様には親身なご指導、ご助言をいただきました。ここに心より感謝申し上げ、私のご挨拶を終わらせていただきます。ありがとうございました。

今、なぜ「福田ドクトリン」記念碑の建立か ～ドクトリンの今日的意味～

白石勝己

40年以上も前の「福田ドクトリン」の記念碑をなぜ今、建立するのかと訝る向きもあるかもしれない。それは、私の除幕式の挨拶でも述べたように、2018年にフィリピンで開催された「福田ドクトリン40周年記念式典」で、マニラホテルに埋め込まれた記念プレートのパイアとなる碑を日本でも設置したいという、関係有志の意向を受けたもので、場所の選定などで多少時間がかかり、今日に至ってしまったという訳である。しかし、それではなぜマニラで40周年記念式典が開かれたか、という理由の説明までには至っていない。その理由はもちろん、40年を経てもなお東南アジアの国々で、その内容が高く評価されているから、ということになるだろう。では、なぜそのように高く評価されているのか、という理由について考えてみたい。

当時、1970年代初めは米中接近、中ソ対立、ベトナム戦争終結とインドシナ3国の社会主義化、日本の経済進出のオーバープレザンスなどが問題になっていて、日本外交独自の立ち位置が強く求められた時代で、同ドクトリン表明だった。流動的で複雑な世界情勢の中であって、当時の福田赳夫政権は「全方位平和外交」という方針を打ち出し、初の外遊先である東南アジア最終訪問地フィリピン マニラで、この3原則を発表した。国家間の外交交渉というと経済力、軍事力を背景に、それぞれ国益を背負って熾烈にしのぎを削り合うことが普通のことなのだろう。そのような中で、平和憲法を掲げる国として、軍事力に拠らず、「心と心」つまり信頼しあう友情関係を基礎とし、平等なパートナーとして互惠協力関係を築こうとの訴えは、関係国に深い感銘を与え、時代に左右されることのない普遍性を獲得したと言えよう。

さて、翻って現在を見ると、対外的には中国の国際的プレゼンスの増大と米中対立、日中・日韓関係の険悪化、世界的には保護主義の台頭など、一方、国内的には経済成長の停滞、日本の国際的プレゼンスの低下などが顕在化し、そこに環境・気候変動、新型コロナウイルス、貧困格差など地球規模の問題が覆いかぶさる。そんなとき、単純な二項対立で黒白色分けする論理は、わかりやすく勇ましくも聞こえるが、しかし、世界の事象の多くは、グラデーションになって存在し分け目は判然としないことが多い。経済でも軍事でも、弱腰・丸腰でいいなどと決して思わないが、あまりにも一方的に大きく傾く議論は均衡をくずし立ち位置を危うくすることだろう。外交、安保を語るにしても、このような時だからこそ、福田ドクトリンのフィロソフィーをしっかりと再認識し、言うべきことはしっかり言い、聞くべきことはきちんと聞くという姿勢が必要なのだと思う。

除幕式ご挨拶

福田康夫 元内閣総理大臣ⁱ

今日はお寒い中ようこそお出でいただきました。公務大変お忙しい中を駐日シンガポール大使ⁱⁱ、駐日フィリピン大使ⁱⁱⁱにお出でいただき、また、遠方からお越しいただいた方々もいらっしゃり、お集まりいただいた皆様にたいへん感謝いたします。

まずは何よりも、この記念碑をここに作っていただいた公益財団法人アジア学生文化協会に、代表して白石理事長がご挨拶されましたが、心から御礼を申し上げたいと思います。これほど立派な記念碑を作ってくださいということは、私も想像していませんでしたのでありますが、作ってくださ

った意味もいま伺わせていただきまして、ありがたいお話だと思っております。

「福田ドクトリン」と言われますけれども、これは言ってみれば、1977年当時の総理大臣^{iv}が日本の対外政策の一環として、このような考え方でアジアの国々とお付き合いをしていく、というお約束の表明で、国家としての約束ということになります。ですから個人的なものではないと思います。そのように考えれば、私共でここに碑を建立することの正当性とか、そういうことについての決定権はないのであります。そこで関係するいろいろな方々と相談をさ

せていただき、その結果、先ほどお伺いした白石理事長のようなご趣旨であるならばお受けすべきであろうという話になり、今日ここにご披露するということになりました。

そもそこの福田ドクトリンの中身につきましては、今日お集まりいただきました皆様の中にも関係される方がいらっしゃると思います。先ほど白石理事長からご紹介がありま

した谷野元中国大使ⁱは、当時アジア局の責任者としてこのドクトリンの中身の大宗を作成してくださった方であり、本日はそういった関係の方々にもお集まりいただき、ありがたく思っている次第であります。

いずれにしても、こういうことが実現するのは、やはりこの財団の関係の皆様のご発意でございますし、またその気持ちを我々十分に受け止めなければいけないというように思います。ドクトリンの中身につきましては、私は今でも通用するものであり、そしてこれからの日本の大きな方向性



佐藤次郎アスジャ・インターナショナル顧問（左）、
田島高志元駐カナダ大使（中央）と福田康夫先生

としても大事にしていかなければいけない内容であると思います。

そういう意味で、40年経って改めてその内容をもう一度噛みしめてみる必要があるのではないかと、今はそういう時期なのではないかと思っております。そういったこともみなさまにこの際お考えいただいて、この除幕式に参加していただきたいと思っております。いずれにせよ、皆様方に今日、こうやって記念すべき時にお集まりいただいたことを心から御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

i 福田康夫 第91代内閣総理大臣（2007年～2008年）

ii ピーター・タン・ハイ・チュアン閣下

iii ホセ・カスティリョ・ラウレル五世閣下

iv 福田赳夫 第67代内閣総理大臣（1976年～1978年）

v 谷野作太郎（外務省アジア局長1987年、駐インド大使1995年、駐中国大使1998年）

除幕式ご挨拶

駐日シンガポール共和国大使 ピーター タン ハイ チュアン閣下



みなさまこんにちは。福田康夫元総理大臣、アジア学生文化協会白石理事長、そして関係者のみなさま、今日アセアン東京委員長としてこの除幕式にお招きいただいたことを心からお礼を申し上げます。

まず、福田ドクトリンは日本と東南アジアとの関係を示す大変重要なシンボルであるということを申し上げます。福田ドクトリンは1977年に当時の総理大臣であった福田赳夫氏が発表されました。その内容は日本が東南アジアの国々と平等なパートナーとして、互恵的な、心と心の関係を築く、ということが基本となっています。

福田ドクトリンが大変重要である理由がもう一点あります。それは1970年代にまだ冷戦が続いていた当時、東南アジアを一つの地域として考え、捉えていただいたことです。そして日本はその経済力を活用して、東南アジアの永続的平和と安定を築くために貢献すると誓ってくださいました。

この考え方はおおいに未来を見据えたものであり、今日に至るまで日本のアセアン外交の大変重要な、そして基本的な枠組みとなっています。現在、東南アジアの国々は日本の企業や投資に対して、

大変大きな経済的な潜在力と可能性を提供しています。東南アジアはこれまで平均年間5%の成長を続けており、世界で最も業績の高い、パフォーマンスの高い地域となっています。

私は、日本のみなさんが東南アジアの魅力を十分に理解してくださっていると確信しています。今、外は大変寒く感じるようになって

きましたが、ここで三点、私は日本とアセアンの関係がこれからさらに重要となり、より温かく育まれる分野をご紹介しますと思います。

まず私たちはお互いに協力して新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、より強靱に回復するよう努力を始めるべきです。アセアンと日本は比較的新型 coronavirus 感染症の対応には成功を収めて参りました。その理由は、私たちがともに世界の供給網を発展させるとともに、保健分野での協力を倍増させてきたからです。東南アジアの国々に大変多くのワクチンを提供してくださったことに対して、アセアン加盟国を代表して私から日本にお礼を申し上げたいと思います。アセアンと日本はさらに協力することが可能です。今後、特に経済の回復と同時に、安全に配慮しつつ渡航を再開してゆかなければなりません。



福田康夫先生とピーター タン ハイ チュアン閣下

二つ目の点ですが、アセアンと日本はこれからも新しい分野で革新的な協力を行っていく必要があります。アセアンと日本はスマートシティー ネットワーク構想に関して緊密な協力を続けて参りました。このスマートシティーに関する協力では、日本企業も一緒になって多くの民間部門が技術的なソリューションを見出しながら、東南アジアでの開発をすすめています。私たちは今後もこのような協力をデジタル化などイノベーター分野で続けるべきです。

三点目の協力分野としては気候変動が上げられます。日本とアセアンは気候変動に関する重要な点で多くの協力が可能だと思います。アセアンと日本はそれぞれが開発した技術と能力によって、例えばクリーン水素の技術、また気候環境分野での金融や投資などでも多くの協力が可能です。

今日、福田ドクトリンの記念碑の除幕式という特別な場で、皆さんにもう一つお話ししたいことがございます。それは経済協力のほかにもう一点、日本と東南アジアが心と心の関係をさらに強化するために、福田ドクトリンのもとで人と人とのつながりを強化する必要があります。日本は東



南アジア青年の船（Ship for Southeast Asian and Japanese Youth Program）によって学生の交流プログラムを続け、日本とアセアンの関係を強化してまいりました。ここからちょっとだけ日本語でお話しします。今日のイベントは私にとって特別な意味があります。シンガポールで第三言語として日本語を勉強した15歳の青年として、私は石川県金沢市で行われた学校交流へ参加するため初めて日本にきました。その時、日本の「おもてなし」を身をもって知りました。そのあと仕事とプライベートで何度も日本にきました。私はまさに福田ドクトリンの卒業生であり、恩恵を受けた一人です。

最後にもう一言お話しさせてください。日本は常にアセアンの国々との関係を築

く場においてパイオニアであり続けてきました。福田ドクトリンが発表されたのは日本がアセアンのダイアログパートナーとなってからわずか4年後のことでした。またアセアンが設立されてからわずか10年後のことでした。福田ドクトリンは、日本が国として初めてアセアンのパートナーとなり、重要なコミットメントとして表明されたものです。それは日本が先見の明のある外交を行った、その模範となり先例となりました。

ここでこの場をお借りしまして、私から福田ドクトリンが日本の心と心の関係をアセアンと築くにあたって、さらにその影響力を続けてくださればと願っております。

ご静聴ありがとうございました。

II レセプション ご挨拶

成澤廣修 文京区長

ご紹介いただきました地元の文京区長の成澤でございます。今日は福田ドクトリンの除幕式にお招きいただきましてありがとうございます。この地にしっかりと福田ドクトリンの精神を根付かせることが、ABKのみなさんと私も地元自治体が行っていかねければならないことなのかなと思いを新たにさせていただきました。

私どもも多文化共生ですとか留学生支援ですとか、様々なことを区の業務としても行っておりますが、ご案内のように文京区内には東京大学やお茶の水女子大学、そしてアジアからの留学生の非常に多い東洋大学や拓殖大学といった大学が十九ございます。現在、先ほどもお話があったように、現状ではなかなか留学生が戻って来られないので若干減ってはいますが、おそらく都内の中でも留学生の多い自治体の一つだろうと思います。

新型コロナウィルスによって、留学生のみなさんたちと交流ができない状態が続いていますが、ABKのみなさんたちのご協力のおかげで、この2年間はオンラインによる区民との留学生の交流をやっていて、来月19日だったと思いますが、今年もこ



ちらの留学生のみなさんと区民の交流会をさせていただく予定にしております。

今朝、福田ドクトリンを改めてインターネットで検索して全文を読み返してみましたが、最初に「多様性」という言葉、そして「よき理解者」という言葉も出てきて、先ほど福田元総理もお話してましたが、今の時代でもしっかりと活かすことの出来る考え方であって、これを地域に実装していくべく、ABKのみなさんたちと我々自治体も努力してまいりたいと思います。

本日は誠にありがとうございます。

レセプションご挨拶

杉浦正健 元法務大臣ⁱ

ご紹介いただきました杉浦でございます。

私は老輩ながら、関係者の一人としていろいろやらせていただいたわけですが、はるか後輩である協会職員からの命令でございますので、一言ご挨拶させていただきます。今日は駐日フィリピン大使ホセ カスティリョ ラウレル閣下がお見えでございます。ご祝辞をいただいた駐日シンガポール大使ピーター タン閣下は金沢に留学されていたということをお聞きして、日本もだいぶん変わってきたなど実感しております。

協会の白石理事長や ABK 学館の佃校長がお話されたことに一点だけ加えて申し上げますが、この会館はあそこに写真がありますが、穂積五一先生ⁱⁱが発意されまして、私の学生時代、60 年以上前に建設作業がはじまったわけでありまして、ここが完成したときに、4 階 5 階に日本人学生が 8 人、留学生が 20 人入寮し、私はその一員として入り友好交流の実をあげたわけでございます。今日、福田ドクトリンの除幕式を迎えることができ穂積先生も



さぞかし喜んでいらっしゃるのではないかと思います。

実は、福田赳夫先生とこのアジア文化会館とは、浅からずのご縁で結ばれているということを申し上げたいと思います。この会館と直接関係があったのは岸信介先生ⁱⁱⁱです。この財団設立の発起人にもなっていただきましたが、1957 年に総理大臣になられたので、代わりに当時総理大臣秘書官だった安倍晋太郎先生^{iv}がお見えになってこの財団の設立の決議をしていただきました。

福田赳夫先生は岸先生とは東京大学法学部で上杉真吉先生^v門下の先輩後輩で、

お二人とも日本を代表する総理になられたわけですが、この協会がまだ海の物とも山の物ともわからない頃、私は穂積先生のお供をして、当時佐藤栄作内閣の下で大蔵大臣だった福田赳夫先生のところに陳情に伺ったことがあります。アジア学生文化協会と同時に設立し、この会館に本部を置いた海外技術者研修協会(AOTS)^{vi}の技術研修生の渡航費をですね、当時は滞在費と研修事業費しかついていなかったんですが、新規に予算化していただけるよう陳情にうかがったのです。私は大学を出たばかりだったので、ずいぶん緊張しました。そうしたらおもむろに電話をとって、その場で主計局長に電話し一言「例の件頼むよ。うん」ガチャン、と。それで渡航費が50%補助でついたということがありました。そのようなことを昨日のように思い出します。

この協会のルーツは戦前から東大正門前にある学生寮^{vii}で、その寮からは政治家もずいぶん輩出しました。

福田康夫先生もご存知かと思いますが、福田赳夫先生の番頭をしていた群馬県から参議院議員になられた山本富雄さん^{viii}も寮の先輩であります。山本富雄さんには、私が衆議院に出ると言ったら「バカなことはよせ、止めとけ」とずいぶんお説教さ

れました。政治家とまったく縁も関係もないのに、簡単に後援会ができるわけがないと論されたのですが、なんとなくこの道に入ってからもお世話になって、ここまでやって参りました。鹿児島県知事から参議院議員になられて総務庁長官を務めた金丸三郎さん^{ix}も先輩です。金丸先生にもずいぶんお世話になりました。それから、本日も祝辞をくださった社会党で元総理大臣の村山富市さん^xも戦前の寮生だったんです。あと何人もいらっやいますが、そういういろんな方々のご縁でできており、改めましてお世話になった方々に感謝を申し上げたいと思います。

それから一つ申し上げたいのですが、福田ドクトリンについて、私は2018年に福田ドクトリン40周年を記念してフィリピンで行われた記念プレートの除幕式に、福田康夫元首相のお供をして伺いました。伝統あるマニラホテルの壁面に金属プレートとして設置されました。実は、私



は石碑を作りたいかったですね。その理由は私が弁護士だった若い30代のころ、イギリスのロンドン郊外にあるマグナカルタ^{xi}、イギリス憲法の一部なんですけれど、その石碑を見たことがあるんです。実に確固たる感じの石碑でございました。それで、福田ドクトリンも私は東南アジ

アと日本を結ぶ外交・友好の基本として、これからもずっと大事にしてゆかなければならないと思います。そういう意味では日本で石碑で残って欲しかった。それが本日、みなさんのご協力をいただいて実現できたということで、大変嬉しく思う次第です。

(左から) 白石アジア学生文化協会理事
長、杉浦元法務大臣、
(石碑を製作した)
株式会社ジーティー
貿易の中根勝美会長、
中根将晴社長



- i 杉浦正健 衆議院議員 1986年～2006年 法務大臣 2005年～2006年 弁護士として活躍中
- ii 穂積五一 財団法人アジア学生文化協会、財団法人海外技術者研修協会、社団法人日タイ経済協力協会の理事長を晩年の1981年まで勤めた。
- iii 岸信介 衆議院議員 1942年～1943年、1953年～1979年 内閣総理大臣 1957年～1960年
- iv 安倍晋太郎 衆議院議員 1958年～1991年 外務大臣 1982年～1986年
- v 上杉真吉 東京大学法学者(憲法)
- vi 財団法人海外技術者研修協会 2012年より財団法人海外貿易開発協会(JODC)と合併し財団法人海外産業人材育成協会と名称変更 2013年一般財団法人へ移行。英語略称はAOTS
- vii 新屋学寮 大正時代上杉真吉東大法学部教授が主催した至軒学堂がルーツ、1932年穂積五一により再興
- viii 山本富雄 参議院議員 1977年～1995年 農林水産大臣 1990年 現群馬県山本一太知事のご尊父
- ix 金丸三郎 鹿児島県知事 1967年～1977年 参議院議員 1977年～1989年 総務庁長官 1988年～1989年
- x 村山富市 衆議院議員 1972年～2000年 内閣総理大臣 1994年～1996年
- xi マグナカルタ 1215年国王の権限を制限し、「法の支配」によるとイギリス憲法の基本となった。

レセプションご挨拶

福田康夫 元内閣総理大臣

想像以上に立派な石碑でした。顔写真もありましたがあれもうまくできています。最近の技術がいいのか、作った中根さん^{vi}の腕が良かったのか両方かもしれませんが、ああいう良い石碑がここに立ったというのは、いまご挨拶された杉浦元法務大臣^{vii}が、おそらく火付け役だったのではないかと思います。杉浦先生だから変な物になるはずはないと思っていましたが、思っていた以上の物が出来たと思っていて、心から御礼を申し上げたい。

このドクトリンの文章を作るにあたっては、外務省の方々は大変ご苦労されました。先ほど申し上げた谷野作太郎さん、当時外務省の課長さんだったでしょうか、中身のある大変良い文章を作っていただいたと思います。

そしてまたこの碑を作るについてはいろんな方に相談しまして、今日お出でになっている田島高志元中国課長^{viii}にも相談に乗っていただきました。今日は中国関係の方も多くいらしてますが、このドクトリンは東南アジアだけではなくて世界に通用するものだと思います。そういう意味では中国でもよく研究して欲しいと思っていたら、実は中国の学者で慶応大学の教授である段瑞聡さんという方が、この福田ドクトリンの研究ということで論文を発表されていらした。そういうことなので案外中国に



も伝わっているのかなと思っているのです。中国もアジアも含めてこのドクトリンが残っていくということは大変いいことではないかなと思います。

そのドクトリンの「心と心」の交流というその実際の活動をしてきたアスジャ（ASJA）という組織がありまして、これは福田赳夫の提案によってできた留学生交流の協会なのですが、形はちょっと変わりましたが今でも引き続いてよくやっています。そのアスジャの佐藤次郎さん^{ix}にはこれまで大変お世話になり、ありがとうございました。今日はその大元のドクトリンを見ていただくということになったわけで、大変良かったと思います。

それからさっきの中国の関係で申し上げ

れば、段瑞聡慶応大学教授のご友人の王敏先生^xもいらしていただいています。わざわざ神戸からも中国と関係の深い孫中山記念会の片山啓さん^{xi}もお出でになっておりますし、本当に皆様方にお世話になったということを重ねて御礼申し上げたい。若干の付言を申し上げてご挨拶とさせていただきます。

- vi 中根勝美 株式会社ジーター貿易（岡崎市石材店）
- vii 杉浦正健 第76代法務大臣（2005年～2006年）
- viii 田島高志（駐ミャンマー大使1993年、駐カナダ大使1995年）
- ix 佐藤次郎 アスジャ・インターナショナル顧問
ASJA (Asia Japan Alumni) International
- x 王敏 桜美林大学特任教授
- xi 片山啓 公益財団法人孫中山記念会理事

佃 吉一 学校法人 ABK 学館理事長

本日はお忙しいところ、アセアン諸国との友好の証として、名誉ある「福田ドクトリン記念碑」を公益財団法人アジア学生文化協会と共同で建立させていただき、元内閣総理大臣福田康夫様に感謝申し上げます。また、この記念すべき今日、アセアン諸国からの駐日大使閣下及び関係の皆様に参加いただきましたこと、学校法人 ABK 学館を代表して感謝申し上げます。

さて、学校法人 ABK 学館は公益財団法人アジア学生文化協会からの設立の趣旨を継承し、8年前に特に日本語教育を軸に、アジアと日本の友好のためにアジアの青年を育成し、人間の絆をはぐくみ、ともにアジアの平和と発展に尽くす目的で設立しました。これまで、特に、アセアン諸国を中心として、日本語教育を現地の日本語関係機関やアジアの大学との連携等を通じて、日本留学及び就職をめざす若者の人材育成に取り組むとともに、今後来るべき日本の



多文化社会に対応すべく、アジアからの留学生への人材育成に取り組んでいます。また、この厳しい新型コロナ感染下で留学生の来日は困難ですが、オンライン授業によるアセアン4ヶ国とのオンライン日本語教育に積極的に取り組んでおります。

この「福田ドクトリン記念碑」の建立を機に、その志を受け継ぐべく、今まで以上日本語教育を通じて一層のアセアン諸国と日本の青年の交流を進展させ、絆をはぐくみ、未来の日本とアセアン諸国との友好と発展に貢献することをお誓い申しあげて、私の挨拶といたします。

福田赳夫総理大臣のマニラにおけるスピーチ（福田ドクトリン演説 全文）

【場 所】フィリピン マニラ（マニラ・ホテル）【年月日】 1977年8月18日

マルコス大統領閣下、イメルダ・マルコス夫人、御列席の皆様

1. クアラルンプールでの首脳会談出席に始まった私の東南アジア諸国訪問もいよいよその終りに近づきました。今、わが国と最も近い隣国である、ここフィリピンにおいて、アジアにおける最も傑出した指導者の一人であり、私の親しい友人であるマルコス大統領閣下の御出席を得て、今回の旅行をしめくくる意味で私の所信を表明する機会を得ましたことは、私の非常に喜びとするところであります。

2. 私は、まず今回の歴訪を通じて得た私の率直な印象からお話を始めたいと存じます。

それは、この地域の「多様性」ということです。私の歴訪した地域は、人種、言語、宗教、文化はもとより、その歴史的背景についても、また経済構造の面でも、まことに多様な様相を呈しております。東南アジアは、決して同質的、画一的な地域ではありません。したがって、この地域における域内協力の可能性について一部に懐疑的な見方があったとしても無理からぬことであつたかも知れません。

しかしながら、このたび創立十周年を迎えた東南アジア諸国連合 (ASEAN) は、この地域の自主的な地域協力機構として、着実に、その地歩を固めつつあります。とりわけ、バリ島における第一回首脳会議は ASEAN の連帯への志向を前進させる点で画期的でありました。更に今回の首脳会議の成功によって、ASEAN 諸国間の連帯

への意思は定着したと言えるかと思います。

ASEAN は、まさに、その加盟各国の豊かな多様性を肯定し、その誇り高いナショナリズムを尊重しつつ、連帯の強化を通じて、この地域の一体性を求めようとする歴史的な、そして成功しつつある試みであります。私は、クアラルンプールで会談した加盟国首脳の ASEAN の連帯に寄せられる情熱をこのような創造的な努力の現われとして理解し、評価したのであります。

3. ASEAN という協力の場における共同作業を通じて共通の利益が生れ、それによって強められた連帯が、次の協力のための計画を可能にする - この繰返しは、ASEAN の将来の歩みであろうと思います。その連帯への歩みは、より同質性の高い地域、例えば欧州と比較するとき、時には遅く、時には多くの逡巡を伴うこととなるかも知れません。

私は、ここで、ASEAN 諸国の指導者と国民の皆様の一つのお約束を致します。それは、日本の政府と国民は、ASEAN の連帯と強靱性強化への努力に対し決して懐疑的な傍観者とはならず、ASEAN とともに歩む「良き協力者」であり続けるであろうということです。

ASEAN 諸国の政府首脳は、今般の会談において、日本を ASEAN の「とくに親しい友人」とであると呼ばれました。順境においてのみならず、逆境においても、理解と友情の手を差し伸べるのが、真の友人であります。日本は、ASEAN にとって、そのような友人でありたいと望みます。

4. 御列席の皆様

ここで、私は、今日の日本が、就中アジアにおいて、どのような姿勢で、他の国々との関係を築こうとしているかについて一言申し述べ、皆様の御理解を得たいと考えます。

第二次大戦後三十年の間、日本国民は、自由と民主主義に立脚した社会の建設のために努力を重ねて参りました。この間に、我が国は、この開かれた社会体制の下で一億一千万人の国民と五千億ドルを超える国民総生産を擁するまでに成長し、世界経済の成長と発展に積極的に協力する意思と能力を併せもつに至ったのであります。

過去の歴史をみれば、経済的な大国は、常に同時に軍事的な大国でもありました。しかし、我が国は、諸国民の公正と信義に信頼してその安全と生存を保持しようという歴史上かつて例をみない理想を掲げ、軍事大国への道は選ばないことを決意いたしました。そして、核兵器をつくる経済的、技術的能力を持ちながらも、かかる兵器を持つことをあえて拒否しているのであります。

これは、史上類例を見ない実験への挑戦であります。同時に人口稠密で資源に乏しく、海外諸国との交流と協調を必要とする我が国にとってはこれ以外の選択はありえないのであります。私は、このような日本の選択こそはアジアの地域、ひいては世界全体の基本的な利益にも資するものであると信じます。我が国が、近隣のいずれの国に対しても軍事的にはもちろんのこと、その他いかなる形であれ、他国を脅かすような存在ではなく、その持てる力を専ら国の内外における平和的な建設と繁栄のために向けようと志す国柄であること - われわれは、このような日本の在り方こそが世界における安定勢力とし

て世界の平和、安定及び発展に貢献しうる道であると確信いたします。

5. 私が常々申しているとおり、今日、人々は協調と連帯以外に生きる道のない時代に生きております。人間は一人で生きていくわけにはまいません。一人一人の人間が、生まれながらのそれぞれの才能を伸ばし、その伸ばした才能を互いに分かち合い、補い合う、その仕組みとしての社会があります。そして社会がよくなるその中で、一人一人の人間は完成されていくのであります。

まったく同じように相互依存の度をますます強めている今日の国際社会においても、いずれの国も一国の力だけで生存することは、もはや、不可能になっております。すべての国は、国際社会の中で、互いに助け合い、補い合い、責任を分かち合い、世界全体がよくなるその中で自国の繁栄をはからなければなりません。

6. このことは日本と東南アジアの諸国との関係を考える場合に特に重要であります。

日本と東南アジア諸国との関係は、単に、物質的な相互利益に基づくものにとどまってはなりません。同じアジアの一員としてお互いに助け合い、補いあうことを心から望む気持ちがあってはじめて物質的、経済的な関係も生きて来るものと考えます。これこそ、日本と東南アジアの人々が、頭だけではなく、心をもって理解し合うことの必要性、すなわち、「心と心のふれ合い」の必要を、私が、今回の歴訪を通じ、繰返し訴えて来た所以であります。同じアジア人である皆様には、私の意味するところはよくお判りいただけることと信じます。物質的充足のみでは嫌たらず、精神的な豊かさを求めるのは、アジアの伝統であり、アジア人の心だからであります。

7. 東南アジア諸国民の一人一人と日本国民の一人一人との間に心と心の触れ合う相互理解を育てて行くために、文化交流が果す重要な役割りは、あらためて多言を要しません。

今日わが国と東南アジアとの間には科学、芸術、スポーツ等の分野での交流が活発に行われており、それは単に、わが国文化の東南アジアへの紹介にとどまらず、東南アジアの古い優れた文化の日本への紹介にも及んでいます。

今後ともわが国とASEAN諸国との間に、このような一方通行でない文化交流をさらに積極的に推進していくべきことはもちろんであります。同時に、ASEAN諸国間の連帯感が高まるにつれ、域内での文化、学術、とくに地域研究等の分野での交流がますます重視されていることに注目したいと思います。私は、このような見地から、ASEAN側において域内交流促進のための具体的構想が固められるのを受けて、これにできる限りの協力を惜しまない旨を明らかにいたしました。この提案は、ASEAN諸国間の相互理解の増進というASEAN諸国民の願望に対する日本国民の共感を示すものにほかなりません。

幸いにして、ASEAN加盟国首脳と私との会談において、各首脳は、この私の提案に賛意を表されましたので、それは、遠からず実現の運びになるものと考えます。

8. さらに私が、ASEAN工業プロジェクトに対する十億ドルの協力で積極的姿勢を示したのも、地域連帯の強化を熱望するASEAN諸国民の心に「心と心のふれ合う」理解をもって応えることが重要であると考えたからであります。日本による協力が域内分業の試みとして歴史的な意義を有するこの計画の実現を促進し、ASEANに

おける種々の域内協力が今後一層強化発展して行く契機となることを期待します。

わが国は、既に今後五年間のうちに、政府開発援助を倍増以上に伸ばす方針を打出しております。この援助の重要な部分は、東南アジアの工業化計画を促進するための工業プロジェクトや基盤整備に引き続き供与されることとなります。ところが、日本政府としては、これに加え、農業、医療、教育等人々の福祉に密着した分野における協力に一層力を入れて行きたいと考えます。

9. わが国の政府開発援助の半ばが、ASEAN諸国及びビルマに向けられていることにも見られるとおり、日本とこれらの諸国の間には、すでに密接な経済上の関係が存在しています。私は、クアラルンプールでの首脳会談と各国の首都における指導者との会談の結果を受けて、この関係をさらに拡大強化する方策について協議して行きたいと存じます。もとよりわが国は、世界的な工業国として、貿易の面でも世界経済全体に対し格別の責任を有しております。世界が排他的経済ブロックに分裂することは全世界にとって自殺行為であります。とくに、今後広く世界の市場へ進出しようというASEAN諸国の利益にも反するものと考えます。わが国とASEAN諸国とが、特別に密接な経済貿易関係を発展させようとするに際しては、私どもは、世界的、長期的な視野に立って、われわれの相互の立場と利益とを理解し合うことが、永続的な協力関係を作っていくために肝要であると考えられるものであります。

10. 最後に、ASEAN地域の安定と繁栄は東南アジア全体の平和の中においてはじめて確保されるものであることは申すまでもありません。東南アジアの一角に多年に亘って燃え続けた戦火がようやく終息した今日、われわれは、東南

アジア全域の恒久的な平和と安定のための努力を強化する好機を迎えております。このような観点から、私は、先般のASEAN首脳会議の共同声明において、ASEAN諸国が、インドシナ諸国と平和で互恵的な関係を発展させたいとの願望を表明し、「これら諸国との理解と協力の領域を互恵を基礎として拡大するための一層の努力をする」との方針を打ち出されたことに敬意を表するものであります。このような忍耐強い努力を通じて、相互理解と協力の輪がやがては、東南アジア全域に広がって行くことを期待したいと考えます。わが国としても、同様の目的をもってインドシナ諸国との間に相互理解の関係を定着させるため努力したいと考えます。

1.1. 御列席の皆様

私は、今回のASEAN諸国およびビルマの政府首脳との実り多い会談において、以上のような東南アジアに対するわが国の姿勢を明らかにして参りました。このわが国の姿勢が、各国首脳の十分な理解と賛同をえたことは、今回の歴訪の大きな収穫でありました。その要点は、次のとおりであります。

第一に、わが国は、平和に徹し軍事大国にはならないことを決意しており、そのような立場から、東南アジアひいては世界の平和と繁栄に貢献する。

第二に、わが国は、東南アジアの国々との間に、政治、経済のみならず社会、文化等、広範な分野において、真の友人として心と心のふれ合う相互信頼関係を築きあげる。

第三に、わが国は、「対等な協力者」の立場に立って、ASEAN及びその加盟国の連帯と強靱性強化の自主的努力に対し、志を同じくする他の域外

諸国とともに積極的に協力し、また、インドシナ諸国との間には相互理解に基づく関係の醸成をはかり、もって東南アジア全域にわたる平和と繁栄の構築に寄与する。

私は、今後以上の三項目を、東南アジアに対するわが国の政策の柱に据え、これを力強く実行してゆく所存であります。そして、東南アジア全域に相互理解と信頼に基づく新しい協力の枠組が定着するよう努め、この地域の諸国とともに平和と繁栄を領ち合いながら、相携えて、世界人類の幸福に貢献して行きたいと念願するものであります。

1.2. マルコス大統領閣下並びにフィリピン国民の皆様

昨日マニラ到着のすぐ後に、私は、フィリピン独立の志士リサール博士の記念碑に献花いたしました。東南アジアにおける植民地支配に対抗して最初に独立運動の火の手を挙げたのは、フィリピン国民でありました。今日国際関係に新しい局面が開かれつつあるとき、ASEANの下での協力の進展、南北問題解決のための国際的な努力などの面で、フィリピンが貴大統領の御指導の下に積極的なイニシアチブをとっておられることも、けだし、当然であります。

私は、日本と東南アジア諸国との間に、心と心の触れ合う相互信頼関係を打ち立て、われわれの関係の歴史に新たな一頁を開こうとするときにあたり、とくに貴大統領並びにフィリピン国民の主導的な役割りに期待して、私のお話を終りたいと存じます。

有難うございました。サラマ・ポ。

(了)

【出典】外交青書22号、326-330頁

シュボジット チャタルジーさん

Subhajit Chatterjee ~ India

ビッショ・バロティ大学 (Visva-Bharati : タゴール 国際大学)

日本学科3年生 (博士)

青山学院大学大学院 文学研究科 日本文学・日本語専攻 (国際交流基金フェローシップ)



国 国際交流基金フェローシッププログラムの研究者として、インドから来日したシュボジットさん。子どもの頃日本のアニメに影響を受け、高校から日本語を勉強、大学ではさらにその語学力を究めました。大学院進学後はインドの神様が日本社会に与えた影響を研究するなど、神仏をベースとした印日の関係を調査・研究。その一方で、母校の日本語教師として、後輩たちの指導にもあたっています。

今回が初めての日本長期滞在となったシュボジットさんに、現在の研究のことやインドの日本語教育事情などについて伺いました。

ビッショ・バロティ大学について… ラビンドラナート・タゴールは1901年、40歳の時、父の別荘があったシャンティニケタンに5人の弟子を集め、従来と異なる野外学園／森林学園を開きました。当初は経済的に厳しい状況にあった為、妻のムリナリニ・デビが自分の宝石を売るなどして学校運営を支えていました。1913年にタゴールはアジア人として初めてノーベル文学賞を受賞し、その賞金を学校運営に当てました。その後タゴールの教育理念に賛同する方々が手を差し伸べると、1921年に大学として認められ、1951年には法令によって「国立大学」となりました。大学として知られているビッショ・バロティには幼稚園、小学校から高等学校まで属しています。それら学校の授業の多くは青空教室で行われており、私の学生時代、大雨の日は休日になりました (シュボジットさん記)。

神話とアニメが生んだ研究者

—— 現在の研究テーマについて教えてください。

今の研究テーマは、現代の印日社会における仏教説話集の役割についてです。インドならジャータカ物語、日本なら日本霊異記（日本国現報善悪霊異記）の社会への役割やインパクトといったことについて研究しています。

中でも研究の中心となっているのは、それらの説話集に登場する動物や色、数字のそれぞれの意味についてです。加えて仏教説話集にはヒンドゥー教の影響が見られ、日本霊異記には神道の影響が見られるのですが、そういった神仏習合について知ることこの研究のポイントになっています。インドには日本に関する研究者が大勢いますが、だいたい「今昔物語」までで、ここまで遡った研究、ジャータカとの比較研究というのは初めてだと思います。

—— 神仏に関する興味というのは以前からあったのでしょうか。

インドの子どもは親から「ラーマーヤナ」などの神話を寝物語として聞かされて育ちます。今では神話に登場するハヌマーンなどを主人公にしたアニメもありますから、インドの子どもたちにとって、それらは教典ではなくてヒーロー物語のようなものです。道徳もそこから学んでいきます。だから神様はインド人にとって身近で自然と興味を抱く存在なんです。

—— 現在はどのように日本での研究生



今回初めて訪れた寺院「護国寺」で

活を送っているのでしょうか。

今は研究の準備段階として東京の寺社巡りと、山の手の七福神巡りをしています。訪れた寺社で写真やビデオをたくさん撮っておき、帰ってから改めて見て、気になるところをピックアップしながら調査をしています。例えば鳥居の龍、手水舎の龍などに様々な発見があって本当に面白いです。

—— 日本に関心を持たれたのはいつ、どのようなきっかけからなのでしょう。

インドの神話と同時に子どもたちには日本のアニメも人気があります。私も「クレヨンしんちゃん」や「ドラゴンボール」を見ていましたから、日本への関心は自然とありました。それで高校の選択科目では日本語を選び、大学で本格的に日本語を学びました。そのうち語学だけでなく、印日関係史に対する関心も高まり、修士では「日



本の地に根付いたインドの神々」というテーマで、主に七福神を取り上げて論文を作成しました。

また宗教面以外では、私の学校を設立したタゴール (Rabindranath Tagore, 1861-1941) をはじめ、インド独立運動の際の、“絶対に忘れてはいけない” 日本からの支援のことや、戦後の東京裁判のパール判事 (Radhabinod Pal, 1886-1967) など、特に日本と関係の深かったベンガル人について興味を持って調べました。

インドでの日本語人気

—— 大学や地域での日本語学習人気は
いかがでしょうか。

私の生まれ育った西ベンガル州のシャ
ンティニケタン (Santiniketan、平和の

郷) はインドで最初の日本語教育が始まったところなんです。これは、この地に柔道を教えにきた佐野仁之助さん (1905-08 年
シャンティニケタン滞在) が、日本語も教えるようになったことが最初ですから、歴史は 100 年以上ということになります。その後 1954 年にビッショ・バロティ大学に日本語・日本文化を研究するための「日本学院」が開設され日本語講座が始まりました。そして 1976 年には付属高校で日本語が選択科目となり、日本から大学教授など多くの研究者がシャンティニケタンを訪れるようになったんです。学士課程としての日本学科が始まったのは 1999 年で、修士課程は 2006 年なので、実はまだ最近なのですが、大学には日本研究と日本語教育の長い歴史がありますから、ビッショ・バロティ大学の日本学科は人気が高く、他



ビッショ・パロティ大学キャンパス



キャンパス内の日本学院（日本学科）



日本学院内の日本庭園

の学科より早く募集枠が埋まってしまうんです。また、東インドの大学で日本語を専攻分野として学べるのはビッショ・パロティだけです。日本語教室＝塾はたくさんあって、大勢の一般の人がそうした塾で学んでいます。

—— **そういった日本語学習者の目的はどのようなものですか。**

日系企業への就職など日本と関わりのある仕事に就きたいというのが一番の理由です。日本語能力試験のN4に合格していると就職に有利になりますし、また日本に行っ

て働けるチャンスも出てきますから、N4をとるために学んでいる人は大勢います。もちろん都市部では、仕事ではなくアニメやJpopなどの日本文化に興味をもって日本語を始める人も増えています。確かに BTSをはじめ Kpop 人気はインドでも凄いのですが、仕事、経済という面で考えると、やはり日本語を学ぼうということになるんです。

日本でのカルチャーショック

—— **今回が4回目の来日とのことですが**

が、日本に初めて来られた時に驚いたことなどありますか。

初来日は2016年の11月で、(一財)日本国際交流センター(JICE)の国際交流プログラム JENESYS (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths)を通じておよそ8日間来日しました。その時ホームステイ先のお父さんに銭湯に連れて行ってもらったのですが、この時の体験は本当にカルチャーショックでした

(笑)。その場の光景はインドでは考えられないもので、ものすごく恥ずかしかったのですが、日本文化を体験するために日本に来たわけですから、「やってみないわけにはいかない」と決意して入りました。ただ外の寒さもあって、お湯がものすごく熱く感じて本当に死ぬほど驚きましたね。ほかに驚いたのは日本のトイレです。まさに未来のトイレで、いろいろなスイッチが付いている。使い方がわからなかったので、YouTubeにあった説明動画を見ながら利用しました。もちろん興奮して、写真をたくさん撮って友人たちに送りました。それから電車の乗降時に客同士がぶつからないことも驚きでした。その他にも想像以上に速い新幹線など、初めて来日した時は驚くことがたくさんありました。

—— 今回の東京滞在中で気に入っている所などありますか。

江戸東京博物館(東京・両国)ですね。



初来日の際。善光寺(東京・港区)にて(2016年)

今まで4回日本に来ていますが、いつも江戸東京博物館に行きます。あそこは日本の長い歴史の流れ、縄文時代から平成、令和まで、全てを見て触れることが出来る素晴らしい所です。自分の学生に教えるときも、インターネットで探した映像を見せるより、江戸東京博物館で撮影した写真やビデオを見せた方がよりわかりやすいんです。日本のそれぞれの時代と文化を理解する場所としては最高の場所だと思います。また、おととい初めて大学の友人である新田さんと上野の東京国立博物館に行きましたが、そこも本当に素晴らしいところでした。歴史的な資料が豊富で嬉しくて、楽しい時間を過ごせました。

—— これから日本滞在中にやってみたいことなどありますか。

四国巡礼ですね。それからもちろん奈良、京都見学です。そして高野山にも行って、できれば一泊したいと思っています。

故郷を思い出するとき

—— 来日からまだ間もないのですが、故郷を懐かしく感じることはありますか。

夕日ですね。私は自分の大学と高校で研究員として日本語を教えているのですが、インドでは授業の後、学生と一緒に近くの川に行って、夕日を見るのが日常でした。ここでは簡単には見られませんね。ちなみに、シャンティニケタンでは先生と学生の距離が近くて、兄弟のようなものなんです。先生と年齢が離れていてもそれは同じで、普段学生と食事をしたり、いろいろな所に出かけたりするのは普通なんですね。

—— そうした環境から日本、特に東京に来ると、寂し

いと感じることもあるのではないのでしょうか。

家族や生徒とは毎日オンラインでやり取りをしていますから、私は確かに日本にいますが、たまにインドにいるような気分になることもあります（笑）。だから、コロナが悪い面ばかりかということ、そうでもない。シャンティニケタンの場合、以前は手紙でのやり取りが普通でしたから、時代を飛び越えてオンラインが普及したとい



国際交流基金次世代ワークショップで。他国の参加者と（右端）（2019年）

う感じです。ただし、気持ちを込めたお礼や、お祝い事の際は、今もオンラインやe-mailではなくて手書きの手紙でやり取りをしています。シャンティニケタンでは、そこに暮らす人々みんながファミリーで近い存在なんです。「世界は一つ、人々はみな家族」ということを唱えてタゴールはシャンティニケタンにビッショ・パロティ大学を作りましたが、その思いが今も街には生きているんです。



同じフェローとしてインドから来日中のパルルさんと
横浜散策

インドにおける日本語 日本研究発展のために

—— シュボジットさんのように、日本語を学んだり日本に留学するインド人学生を増やすためにはどのような方法が考えられますか。

インドでは日本政府（文部科学省）による日本留学フェアで日本の大学の紹介などが行われています。また日本の大使館と総領事館、そして国際交流基金は高等教育機関だけではなく、街の日本語塾のために、新しい日本語教材を提供したり、日本語教師養成講座を企画するなどのサポートをしてくれていて、そうした活動はとても喜ばれています。また、国際交流基金では日本の文学や映画など日本文化を広めるための活動を行っていますし、特に日本語学習者以外の人、日本に関する研究をしている

研究者についても支援を行ってくれていて、これは本当に素晴らしいことだと思います。その上で、インドの若者にもっと日本留学のことを知ってもらうという意味では、日本で学んだインド人留学生に自分の留学経験や奨学金プログラムのことなどを帰国後、それぞれの地域で話してもらう、広めてもらうことが重要だと思います。日本政府は

そのための手助けができるのではないのでしょうか。今はSNSを通じて、すぐに情報を拡散できます。私もイラストが豊富な新しく良い日本語の教科書や、日本留学情報などを見つけると、すぐに生徒たちに送っています。

—— 最後に関係者のみなさんに一言お願いします。

私は国際交流基金のフェローシップ制度を利用して、今こうして日本で研究活動が行えています。この制度を利用して日本に来ることは夢でしたから、その夢が実現して本当に嬉しく思っています。そして、こうした活動を続けていただくことで、将来の印日関係はもっと深く強いものになるのではないかと、改めて感じています。

—— ぜひ日本で充実した研究活動を行ってください。本日はありがとうございました。

新星学寮での生活

(第5回)

新星学寮はアジア学生文化協会の創設者である穂積五一先生が1932年に再興した至軒寮を戦後（1945年）改称したものです。以来日本とアジアの青年学生が自治的な共同生活を通じ、相互理解を深め友愛を培う場として維持されてきました。しかし老朽化が進んだため、2018年に耐震性・耐火性を備えた建物に建て直されました。建替えに当ってはOB・OG・関係者の皆様から多大なるご協力をいただき、2019年4月に新入寮生を集め新たなスタートを切りました。本コーナーではこの新星学寮の今をお伝えします。

マレーシア人寮生に聞く 新星学寮の生活

チャン ジュンシさん 東京大学 大学院理学研究科 化学専攻（博士1年生）

マレーシア出身のチャン ジュンシさんは2015年来日、名古屋大学国際プログラム（G30 Chemistry Bachelor of Science Program）で学部生活を送ったのち、東京大学大学院に進学し、今年4月に新星学寮に入寮しました。多文化共生生活を楽しみにしていたというジュンシさんに、新しい寮での発見や日本での生活について聞きました。

＜日本留学の理由＞

—— 大学院ではどのような研究をしていますか。

理学研究科で生物有機化学を専門に学んでいます。具体的には生体内のタンパク質に対する、薬品の研究です。もともと生物

の構造に興味があって、それを好きな化学と結びつけた研究をしてみたいと思っていましたから、今の研究はとても難しいのですが、楽しくもあり、やり甲斐を感じています。

—— 留学先に日本を選んだ理由を教えてください。

マレーシアの周りの友達は皆オーストラリアやイギリスなど英語圏の国に留学していて、日本に行く人は全くなかったのですが、私は新しい言語や文化を吸収したくて日本を選びました。日本は子どもの頃に両親と北海道旅行をしたことがあって、その時の印象が良く、きれいなところで住んでみたいと思っていたんです。ただ日本

語は学んだことはなかったの
で、来日してしばらくは買い
物をするのも大変だったので
すが、日本人の友達のおかげ
でなんとか乗り越えることが
出来ました。

—— **今は日本語がお上手
ですが、どこで学ばれたので
しょうか。**

日本語は大学に入ってから
学びました。私は名古屋
大学の国際プログラムに入
学したので、授業は全て英
語だったのですが、1年生の時、毎日2時
間日本語の授業があり、そこで鍛えられた
という感じです(笑)。

<共同生活に憧れて新星学寮へ>

—— **大学学部時代の生活はどうでした
か？ どんな所に住んでいたのでしょうか。**

国際プログラムの学生は外国人と、日本
人も帰国子女の人たちでしたから、とても
グローバルな環境で自分だけが違うと感じ
るような、疎外感やカルチャーギャップは
感じずに過ごせました。

当時の住居は国際学生寮だったのです
が、寮といっても完全に個室で、キッチン
もシャワールームも部屋にあったので、あ
まり他の学生との共同生活という感じでは
ありませんでした。それで、東京ではシェ
アハウスのようなところで、他の学生と触
れ合える生活がしてみたいと思っていたん
です。



東京大学大学院（修士課程）の卒業式で

—— **新星学寮の歴史などについては知っ
ていましたか。**

応募する段階ではまったく知らなくて、
入寮してから世界で活躍する様々な先輩が
いて、みなさんの思いが詰まった歴史のあ
る寮なんだということを知りました。

—— **実際に生活をしてみたいかがですか。**

寮のルールについては面接の時に聞いてい
たのですが、こんなに責任感を持って運営
に関わらないといけないとは思っていませ
んでした。担当することがいろいろあるこ
とは知っていましたが、ちょっとやればい
い程度に考えていましたから。私はいま会
計を担当していて、それほど時間はかから
ないのですが、寮長になると、やらなけれ
ばならないことは増えますし、寮生同士の
意見が対立した時などは、上手にまとめな
いといけませんから、気軽な気持ちではで
きないなと感じています。

—— **全員が同じ方向に向くというのはな**



寮の行事でボルダリングに挑戦（左端）

なかなか難しいことなんですね。

それから寮に入って気付いたのは、意外とみんな、活動に対して積極的ではないんだなということです。私はイベントの担当もしていて、毎月何をするか計画を立てるのですが、みんながそうした活動に対して積極的というわけではありません。特にコロナ禍の時は食事会もなかなか作り手が集まらなくて、結局私が毎回作ることになって、時々寮長が手伝ってくれましたが、本当に疲れました（笑）。それでもみんな食べることは好きですから、食事会の参加者はいるのですが、ほかのイベントなどは、なかなか希望者が集まらなくて、どうしたらいいんだろうという感じです。

—— **思い描いた寮のコンセプト通りには** いないという感じですね。

もちろん最初に寮のルールや役割に関する説明はあるのですが、たぶんみんなもっと簡単に、週に1回程度、ちょっとやればいい程度に考えていたんだと思います。例

えばいつも行事に参加しない人にはペナルティを与えるべきという意見もありますが、それをしてしまうとお互いに監視し合っているような、住みにくい寮になってしまうのではないかと思います。

＜寮での発見と喜び＞

—— **では寮に住んでいて、いま楽しいことはなんですか。**

コロナ禍が落ち着いて、最近になって食事会も以前のようにみんなが集まってできるようになりましたから、料理を一緒に作ることや、食後にみんなでやるボードゲームなどは、朝までやることもあって楽しいですね。

—— **寮にいる間に実現したいことなどはありますか。**

たくさんあるのですが、ハイキングとかキャンプ、バーベキューなど、アウトドアの活動を寮の行事として行いたいですね。実は最近ピクニックを企画したのですが、参加希望者が3人しか集まらず、実現しませんでした。ルールでは、寮生の半数以上が集まらないと、寮の活動としては認められないので、もっとみんなに積極的に参加してもらいたいと思っています。

—— **では、寮に入って学んだこと、発見したことなどがあれば教えてください。**

寮に入って他国の学生と共同生活をする体験ができ、そこでお互いに意見を交わすうちに、言いづらいことも含めて自分の意見をうまく表現できるようになりました。

また、そうした付き合いの中で、自分の視野が広がっていくを感じています。出身地域に関わらず、人の考え方は違う、違って当たり前なんだということを意識できるようになりました。寮の生活では、自分の正解が他人の正解とは限らないということを日々実感しています。もちろんそこには面倒臭い面もあるのですが、私はあまり気にならず、受入れることが出来る。それは今、人生の勉強になっています。

＜日本留学を振り返って＞

——ではジュンシさん個人の、将来の目標などあれば教えてください。

今博士課程の1年生ですが、卒業まであと3年間、研究に集中してもっと極めていきたいと思っています。将来の仕事についてはまだ考えていませんが、医薬品業界などで研究職ができれば理想的だなと思います。

——今までをふりかえって、日本に留学したことをどう思いますか。

日本ではあまり外食もできず、来日した当初は毎日コンビニのお弁当だったのですが、それにも飽きてしまい、初めて自炊を始めたんです。そこから一人暮らしと呼べる生活が始まり、精神的にも自立できたように感じ、とても嬉しかったのを覚えています。そうした面も含めて、日本留学は大成功でした。同じ時期に英語圏の国に留学した友人たちはもうマレーシアに帰国して



仲間と行う食事会の準備は楽しい一時（中央）

いますが、以前と何も変わることなく、また元の生活に戻ってしまっているように感じます。

——そうした違いはどうして生まれると思いますか。

他国に留学した友達は、母国の人としか交流しないことが多く、人間関係のサークルが狭いように感じます。日本に来ている留学生は留学生同士の団結力が強く、お互いの国の文化や言語などにも積極的に興味を持って付き合いますから、交流がとてもスムーズにでき、お互い壁を感じることはありません。そのおかげで、人間関係のサークルを広げることができ、アジア人、欧米人、そのほか様々な国からの留学生と友人関係を築くことが出来ました。ですから本当に、日本留学は今までの人生で最高の選択だったと思っています。

——嬉しいお言葉です。これからも全方向的に日本留学生活を満喫していただければと思います。ありがとうございました。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

水谷 光一

④2 動き出した TNI、そしてタイの学校

泰日工業大学に普段から関心をお持ちの読者諸兄はすでにタイが11月1日から渡航制限を大幅解除して、自由にタイ国内を旅行できるようになったというニュースを聞いているのではないだろうか。

今週来客2組が日本から訪問されたが、どちらもタイに着くまでとても苦労したようで、特にタイランド・パス^{*}の取得は非常に困難だったとの苦労話を聞いた。一人の来客は結局航空券を予約した日までにQRコードが発給されず、格安チケットにもかかわらずエアラインが渡航日を変更してくれたそう。それだけトラブルが多いのだという。

本件を論じているとたちまち紙数が尽きてしまいそうなので、早速 TNI の近況を報告したい。

(※ ワクチン接種証明書や医療保険加入証明書、パスポート情報等を提出すると発行されるタイ入国の為の QR コード)

TNI は11月8日から通常通りとは言わないまでも、学生がキャンパスに戻ってくるようになった。というのは、私たちは工業大学なので、“実習”がある。タイ語では“パティバツ”と言うが、実際に手を動かし、学ぶという意味がある。

他大学ではほとんどこの“パティバツ”がなくなってしまうそう。主な原因は指導できる先生がいないからだという。

主にパティバツがあるのは工学部で、たとえば1年生の課題は「金属加工」「マニュアル旋盤」「電気溶接」である。金属加工とは私たちが昔高校の技術の授業でやったようなブリキ板でちりとりのような物を作ること(板金加工)であり、TNI の場合は金属の箱を作成する。その他「ハンマー」を自分で製作する。ハンマーの頭の部分(専門的には“ヘッド”という)を金属の塊からやすりで削り出す。柄の部分はマニュアル旋盤で棒状に加工する。電気溶接はあえて説明は必要ないだろう。実習現場を見に行ってみたが、スパークを上げて女子学生が電気溶接を行っていた。

やったことがある人は分かると思うが、電気溶接は数千ボルトの電源を扱う、指導側も気を遣う仕事である。高校を卒業したばかりの、しかもどちらかというと進学高校で成績優秀だった高校生が大学に入って初めて触るには勇気がいったであろう。

他に、コンピューターのプログラムや、3Dアニメーションの製作なども TNI の大事な実習(パティバツ)である。

マニュアル旋盤指導の様子



電気溶接実習をする女子学生

とはいっても、講義形式の授業は今でもほとんどオンライン（インターネットを使った授業）で、TNIに毎日登校している学生は全学生3,500人（大学院を含む）の中の300人程度／日である。

現在TNIではどのように通学を伴う授業に戻すかを検討中だが、今のところワクチンを一回以上打った学生を登校可能とするか、加えて、毎週例えば日曜日にATK検査（抗体検査キット：綿棒を鼻に入れ、試薬に浸し

一本線が現れるようなら「陰性」）を自宅か病院で行い、陰性であれば登校させる方向で検討している。いずれにしても無条件で、といかないのはタイへ入国する外国人観光客同様である。

大学の話ではないが、筆者の息子は10歳であるが、学校からワクチンを接種するよう勧められた。強制ではないが、父兄の間では接種を拒否すると、子供が不利に扱われるのではないかと動揺があった。結局筆者はいろいろ自分で調べた上で安全だと思い接種させたが、学校の中で接種を容認した保護者は半分程度だったと思う。現在長男は小学校に通い始めたが、（2021年の新学期からずっとオンライン授業だった）クラス27人のうち、登校してきているのは10人だけだった。残りはいまだに家でオンライン授業を受けいている。

まだまだ、以前の学校を取り戻すには時間がかかりそうである。

水谷光一（みずたにこういち） 1962年神奈川県生まれ。1988年からタイ在住。1999～2004年ABKに勤務。現在TNI Co-operative education and job placement center所属。



しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

しょうがくきんじょうほう 奨学金情報は Japan Study Support (JPSS) web サイトで検索いただけます。

■ 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団 私立費留学奨学生 募集要項 (春募集)

おうほしかく 応募資格：ASEAN 諸国及び南西アジアから
にほん 日本に大学に留学している学生で、当財団の
じょうけん 条件を満たす者を対象とします。募集要項や
おうほほうほう 応募方法については当財団のホームページをご
らん 覧ください。

① 私立費留学奨学生 (2022 年 4 月に編入又は
にゅうがく 入学する者)

• 給付金額：(学部学生) 月額 15 万円
(大学院生) 月額 18 万円 (他に授

業料補助制度、学会出席補助金制度あり)

• 給付期間：2022 年 4 月から 2024 年 3 月まで
の 2 年間 (ただし、採用時の課程修了までの標
準修業年限とする。)

• 募集人数：若干名

② 私立費留学奨学生 (博士課程在学期間延長学生)

コロナ禍において、本人の事由によらず、2022
年 3 月の博士後期課程修了を延長せざるを得な
い私立費留学生を対象に特別募集を行います。

• 給付金額：月額 18 万円 (他に授業料補助制
度、学会出席補助金制度あり)

• 給付期間：2022 年 4 月から 2023 年 3 月ま
での 1 年間。但し期間中に博士課程修了とな
った場合は、その時に終了

• 募集人数：若干名

• 主催および問合せ先：

〒108-0023 東京都港区芝浦 3 丁目 1 番 1 号
公益財団法人 佐藤陽国際奨学財団事務局

☎ 03-6435-3388

E-Mail sisf@sato-global.com

URL <http://www.sisf.or.jp>



イベント情報

外国人留学生大卒等合同就職面接会

開催日時 ■ ① 2022年1月13日(木)、14日(金) 13:00～16:50

② 2022年1月19日(水)、20日(木) 13:00～16:50

会場 ■ ① 東京新卒応援ハローワーク
(東京都新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 21F 出会いのフロア)

② 外国人在留支援センター
(東京都新宿区四谷 1-6-1 コモレ四谷 四谷タワー 14F)

参加企業数 ■ 全25社(1月13日(木)、14日(金)は各8社、1月19日(水)、20日(木)は各4社での開催を予定)

対象 ■ 2022年3月卒業予定者(大学院、大学、短大、高専、専門学校)、卒業後おおむね3年以内の既卒者

予約 ■ 本面接会は完全事前予約制です。12月14日(火)朝9時より予約受付を開始します。

1月13日(木)、14日(金)、19日(水)、20日(木)に開催される面接会の参加企業より1社面接する求人を決めた後に、必ず東京外国人雇用サービスセンターまたは最寄りのハローワークにて予約を行い、紹介状と参加票をお受け取りください。

参加企業名等詳細、参加票入手 ■ <https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-foreigner/>

主催・問合せ ■ 東京外国人雇用サービスセンター Tel. 03-5361-8722

ジェトロオンライン合同企業説明会 2022 冬 (JETRO ONLINE JOB FAIR 2022 winter)

開催日時 ■ 2022年1月17日(月)～1月21日(金) 10:00-16:00

内容 ■ 外国人材を採用したい日本全国多数の企業に出会える、外国人留学生のための合同企業説明会です。日本はもちろん世界中どこからでも参加可能です。また同日開催のセミナーでは、日本での就活に必要なビジネスマナーや面接対策、日本で働くための在留資格などの知識を学べます。

対象 ■ 2022年春卒業見込みの留学生(既卒の方も参加可)

詳細、参加登録 ■ <https://jetro.career-bank.co.jp/#pageTop--seminar>

主催 ■ 日本貿易振興機構 (JETRO)

じょぶ はくとうきょう じょぶ はくおおさか
JOB 博東京 2023 / JOB 博大阪 2023

かいさいにちじ とうきょう
開催日時 ■ ①東京 2022年2月26日(土) 10:00～17:00

②大阪 2022年3月19日(土) 10:00～17:00

かいじょう
会場 ■ ①JOB HUB SQUARE (東京都千代田区大手町 2-6-2)

②梅田スカイビル (大阪市北区大淀中 1-1-88)

しょうさい
詳細・エントリー ■ <https://job-haku.com>

しゅさい かぶしきがいしゃ
主催 ■ 株式会社 パソナ

MEMBERS

〈会費とご寄附の報告〉

2021年7月

特別会員

(3口)
(一財) 海外産業人材育成協会 足立区

(1口)
今西 淳子 文京区
株式会社 InfoDeliver 港区

賛助会員

服部 泰子 豊田市
亜細亜大学 武蔵野市
(株) 日吉 近江八幡市

正会員

(3口)
広江 重徳 浅口郡
(1口)
三代 純平 小平市
高橋 作太郎 静岡市
岩尾 明 日田市
大越 英男 仙台市
小宮 信介 三田市
荒川 雄彦 北杜市
中曽根 信／不二 由布市
東京都太田記念館 杉並区
山本 章治 横浜市
米田 康三 浦安市

大杉 立 つくば市

ご寄附

中曽根 信／不二 由布市
米田 康三 浦安市
池野 朋彦／晶子 横浜市
久津間 優子 小田原市
小宮 信介 三田市
山崎 光郎 横浜市
酒井 杏郎 渋谷区
仁田 裕子 所沢市
西嶋 勝彦 千代田区
KRAISORN THRONGNUMCHAI 厚木市

2021年8月

特別会員

(1口)
立命館アジア太平洋大学 別府市

正会員

(1口)
大里 浩秋 逗子市
小倉 美恵子 川崎市
本村 博志 豊島区
宮原 彬 朝霞市
稲垣 史 足立区
藤原 一枝 武蔵野市
関 正昭 鹿児島市
アジア・コミュニティ・センター 21 文京区
野口 明美 三鷹市

ご寄附

稲垣 史 足立区

2021年9月

特別会員

(5口)
(株) スリーエーネットワーク 千代田区

(1口)
王 杉 千歳市

正会員

(2口)
石川 毅／優子 北区
(1口)
鍋田 純一／由美 千葉市
寺尾 方孝／三枝子 国分寺市
外山 経子 八王子市

ご寄附

鍋田 純一／由美 千葉市
小宮 信介 三田市
山口 憲明 日野市
外山 経子 八王子市
渥美 康美 港区

皆様の温かいご協力に
感謝申し上げます

前号(547号)本コーナーに誤りがありました。お詫びをして下記の通り訂正をさせていただきます。

<2021年4月 正会員> 柳瀬修三 バンコク (誤) 1口 → (正) 2口

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：公益財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 白石勝己

設 立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◇主な事業◇

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間2千円（十税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

2015年度より購読料に別途消費税を負担いただくことになりました。何卒ご了承下さい。

巻末言

■ 本号は 11 月 24 日に開催された福田ドクトリン記念碑除幕式の特集となった。3 年ほど前、本協会の大先輩で衆議院議員時代、福田赳夫元首相の薫陶をうけた杉浦正健先生から、福田ドクトリンの記念碑の設置場所にアジア文化会館はどうか、と打診を受けた。杉浦先生は 2018 年 10 月マニラで行われた祈念パネル除幕式に参列されて、日本でも同ドクトリンの趣旨を後世に伝えるべく、記念碑が必要だと強く思われたのだろう。

■ 我々は、ちょっとした自然石のモニュメント程度と考え、気軽に OK の返事をしたのだが、先生は英国ロンドン郊外の「マグナカルタ」の石碑をイメージしていると知り慌てた。それから福田ドクトリンの内容や、当時の世界情勢、日本の状況など、にわか勉強することとなったが、その意味を知れば知るほど、きちんと咀嚼し真剣に自らに引付けなければならない、と覚悟させられた。

■ アジア文化会館から歩いて 5 分もかからないところに東洋文庫があり、歴史的に貴重なアジアの書籍や資料が数多く収められている。そのミュージアムの入り口には「好太王碑文」の拓本（双鉤加墨本）コピーが原寸大で掲示されている。幅 1.5 メートル、高さ 6 メートルの見上げる碑文で、そこには約 1600 年前（永楽十年）、高句麗が朝鮮半島に侵攻した倭を撃退した、という一文が刻まれている。

■ 我々の地に建った石碑は、日本は軍事力に拠ることなく、アジアの国々と「心と心」の友情と信頼をもって互恵協力する、と刻まれている。1600 年後、誰かこの刻字を拓本で浮かび上がらせることがあるだろうか。礎石はベトナムの白御影、石碑本体はインドの黒御影、文字と点刻（写真の影彫り）は中国の福建省泉州市で加工され、海を渡ってこの地に据えられている。（白）

アジアの友 2021 年 10 - 12 月号

2021 年 12 月 20 日発行（通刊第548号）

年間購読（送料共）2,000円＋税 1部 500円＋税

発行人 白石勝己

編集 アジアの友編集部

発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)

電話番号：03-3946-4121

ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754

E-mail: tomo@abk.or.jp

ホームページ：(<http://www.abk.or.jp/>)

published by THE ASIANSTUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: <http://www.abk.or.jp/>

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話にてお願いいたします。



学校法人 ABK 学館

ABK学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6912-0756

FAX +81-3-6912-0757

U R L <http://abk.ac.jp>

E-mail info@abk.ac.jp



- 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLEGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会が寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校しました。当校には姉妹校のABK日本語コース（公益財団法人アジア学生文化協会）もあり各種協力を行います。



ABK COLLEGE (学校法人ABK学院ABK学院日本語学校)			
東京都認可日本語課程 (大学院、専門学校、短大、文化体験等)			
	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	4月入学 2年コース
授業時間	860時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	80,000円		
授業・教材費含む	620,000円	930,000円	1,240,000円

姉妹校 ABK日本語コース (公益財団法人アジア学生文化協会)
文部科学省指定大学進学準備教育課程

	4月入学 1年コース	10月入学 1.5年コース
授業時間	1,086時間	1,586時間
入学検定料	20,000円	
入学金	80,000円 (大学進学日本語課程) 95,000円 (大学進学準備課程)	
授業・教材費含む	720,600円	1,080,000円

所在地: 〒113-8643 東京都文京区本郷2-12-13
電話: +81-3-5966-2711 FAX: +81-3-5949-7589 Eメール: info@abk.ac.jp